



本との出会いから

副校長 村上 尚子

数日前までは少し心配されたお天気でしたが、澄み切った青空のもと、21日（土）本校運動会が行われました。保護者の参観は3年ぶりの制限なし、そして今年は創立50周年記念と銘打ち、特別種目もプログラムに盛り込まれました。私は当日に向けて、練習に取り組む子どもたちの様子を日々見守っておりました。日を追うごとに覚えた演技の動きが大きくなり、手足の位置やタイミングも揃い、徐々に仕上がっていく演技の完成度を心で感じながら取り組む子どもたち。本番はどの学年も、笑顔と自信にあふれたとてもいい表情で臨むことができたと感じています。子どもたちへの温かいご声援、ありがとうございました。

さて、秋といえばスポーツ、食欲、そして読書の秋です。自身もこれまで多くの本にふれてきました。そんな中、図書室前に懐かしい絵本を見つけました。

「もったいないばあさん」。

小さい子どもたちが食べものを残したり、まだ使えるものを捨てようとしたりすると、「もったいない！」と言っておばあさんが現れ、知恵を授けてくれる、そんな内容の絵本です。これは、絵本作家の真珠まりこさんが、自分の幼いわが子のために、「もったいない」という言葉の意味とものの大切さを伝えようと書いた作品です。この作品と出会った当時、内容の斬新さとストレートに物事を伝えるおばあさんの姿がとても心に残り、その時教えていた子どもたちと一緒に考えたいと、読み聞かせをしたことを思い出しました。子どもたちはユニークな絵と展開の面白さにすっかり魅了され、「もったいない！もったいない！」と言いながら、様々な場面でものを大切にする心を少しずつ身につけていったように感じます。

あれから15年余り。2015年に国連サミットで決まったSDGs。持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して制定されました。そして今、この「もったいないばあさん」がSDGsの先駆者として世界で注目されています。私自身、今一度「もったいないばあさん」を読み返してみようと思います。何年も前に出会った本が、時を経て違う形で「また会いたい」と思わせてくれました。初めて読んだ時とは違う視点で読み返すことで、心に残ることも考えることも、きっと、あの時とは別の新たな感動に出会えるのではと、今からとても楽しみです。ぜひ、皆さんも新たに手に取ってみる本に加え、以前に読んだことのある本も再び手に取ってみてはいかがでしょうか。

